

日本サッカー W 杯への道

平成10年2月24日～3月20日

1998 年 6 月、日本も念願の初出場を決めた W 杯サッカー・フランス大会が、いよいよ開幕します。そこで今回は、明治時代に日本にサッカーが伝来してから、W 杯出場を決めるまでの日本のサッカーの歩みを、国際舞台での活躍を中心に振り返ってみたいと思います。

 展示資料一覧

<>内は当館請求記号

日本サッカーの起源と大日本蹴球協会の設立

日本にはじめてサッカーが紹介されたのは、1873(明治 6)年の秋、東京の築地にあった海軍兵学校の教官でイギリス海軍将校であるアーチフォールド・ダグラス少佐とその部下達によってであるといわれている。しかし軍人を通してのサッカーは日本ではひろがらず、主として御雇い外国人教師により学校の運動場で教えられたものが発達していった。なかでも東京高等師範学校はその卒業生を通して、日本各地にサッカーがひろまる上での大きな役割を果たした。

各地にサッカーがひろまっていく一方で、日本全国のサッカー競技を統括する組織はできていなかったが、イギリスのサッカー協会から FA 杯が授与されたのをきっかけに 1921 年 9 月、大日本蹴球協会が発足し、また初めての全国大会である全日本選手権大会(今日の天皇杯)が開催された。

1. 戸外遊戯法 一名・戸外運動法

坪井玄道, 田中盛業編

<YDM75230>

東京 金港堂 明18.4 112丁 19cm 和装

東京大学のイギリス人教師 F. ウィリアム・ストレンジが出版した「アウト・ドア・ゲームス」の邦訳版。17 項にフットボールの記載がある。

2. フットボール術

高見沢宗蔵, 鳥飼英次郎著

<YDM75713>

東京 尚栄堂, 至誠堂 明35.10 94p 18cm

3. アソシエーションフットボール

東京高等師範学校フットボール部編

<YDM75103>

大阪 鍾美堂 明36.10 127p 19cm

サッカーの用語やルール、プレイの仕方などを紹介する。欧米の解説書を参考にして書かれた。

4. フットボール

東京高等師範学校々友会蹴球部編

<YDM75705>

東京 大日本図書 明41.6 193p 19cm 付：著者の経験

前書「アソシエーションフットボール」から一歩進んで、自分たちの体験を消化したより具体的な参考書となった。

5. 大日本体育協会史 (下)

東京 大日本体育協会 1936-1937 2冊 27cm

<780.6-D17d>

大日本蹴球協会史が収録されている。

6. 日本サッカーのあゆみ

日本蹴球協会編 東京 講談社 1974 253p(図・肖像共) 27cm

<FS35-86>

日本蹴球協会創立満50年記念出版

日本蹴球協会の創立 50 周年を記念して刊行された。図版や引用記事などを豊富に収録し、資料的価値も高い。

極東選手権からベルリンの奇跡まで

日本代表の最初の国際試合は 1917 年 5 月 9 日、東京芝浦埋立地の競技場で行われた第 3 回極東選手権での中華民国戦であった。この時は、代表として東京高等師範チームが出場したが、完敗した。しかしこの極東選手権大会への参加と、大日本蹴球協会の結成が刺激となり、日本サッカーの技術水準は飛躍的に向上し、1930 年 5 月の第 9 回極東選手権大会では、初めて大日本蹴球協会によって選抜された代表チームが出場し、中華民国と同率ながら初優勝を遂げるまでになった。

次なるステップとしてオリンピックを目標とした日本は 1936 年 8 月 4 日、第 11 回オリンピック・ベルリン大会において、優勝候補筆頭にあげられていたスウェーデンを破り、「ベルリンの奇跡」と呼ばれた歴史的な勝利をおさめるまでになった。

7. 日本蹴球外史 協会創立七拾年を祝い

竹内至〔著〕 狛江 竹内至 1991.3 261p 26cm <FS35-E564>

大正 6(1917)年から昭和 10(1935)年までの日本のサッカー界の国内・国際における公式試合の記録を収録する。当時の雑誌記事等も豊富に引用されている。

8. 激動の昭和スポーツ史 9

東京 ベースボール・マガジン社 1989.5 177p 30cm <FS22-E14>

サッカー ベルリン五輪の奇跡とメキシコ五輪の栄光

『サッカー・マガジン別冊』新緑号 永久保存版

9. オリンピック大会報告書 第 11 回 大日本体育協会編

東京 大日本体育協会 昭和12 455p 26cm <648-69>

代表選手決定のいきさつから、練習日誌、戦前予想、各試合の経過まで詳しく記載する。

戦後の再建とメキシコオリンピックへの道

戦後の混乱もさめやらぬ 1946 年には早くも戦後第一回目の全日本選手権が行われた。その後 1951 年の第 1 回アジア大会で国際舞台に復帰を果たし、1954 年には W 杯スイス大会に初めて挑戦した。しかしその後、W 杯よりもオリンピックを第一の目標と定め、特に地元開催となる東京オリンピックを目標に強化を進めた結果、1964 年の東京オリンピックではアルゼンチンを破るなどベスト 8 に入る善戦であった。国内では、1966 年に日本サッカーリーグが開幕し、サッカーブームが到来した。さらに 1968 年のメキシコオリンピックでは銅メダルを獲得し、アマチュアレベルではあるが、日本サッカーの黄金期を築いた。

10. 日韓キックオフ伝説 宿命の対決に秘められた「恨」と「情」

大島裕史著 東京 実業之日本社 1996.12 389p 20cm <FS35-G218>

現在も激しいライバル関係にある日本と韓国の最初の試合は 1954 年の W 杯スイス大会予選であった。東京で 2 試合行われたが 1 敗 1 分けて、日本の本大会出場はかなわなかった。本書はこの一戦に至るまでの日韓両国のサッカーの歴史を朝鮮の日本統治時代を含めて解説する。

11. 激動のスポーツ 40 年史 1945～1985 12

東京 ベースボール・マガジン社 1986.3 176p 30cm <FS22-E2>

サッカー 苦難と栄光の歴史

ベースボール・マガジン社創立40周年記念出版 『別冊サッカー・マガジン』桜花号

1969 年 10 月の東京オリンピックにおいて、日本は初戦でアルゼンチンと対戦し 3—2 で勝利し

た。第二戦でガーナには敗れたが、グループリーグを突破してベスト 8 入りを果たした。

12. 別冊サッカーマガジン ベースボール・マガジン社〔編〕

ベースボール・マガジン社 [19--] -年4回刊 <Z11-643>
12巻3号通算34号(昭和60年秋季)

1965 年 6 月に開幕した日本サッカーリーグの 20 年史。全国規模のリーグ戦として実業団を中心に結成された。

13. ゴールの軌跡 釜本邦茂自伝

釜本邦茂著 東京 ベースボール・マガジン社 1976 235p 肖像 19cm
<Y77-3046>

メキシコオリンピック銅メダル獲得の立役者となった釜本邦茂氏の自伝。

14. サッカーマガジン ベースボール・マガジン社〔編〕

ベースボール・マガジン社 1966- 週刊 3巻12号(1968年12月) <Z11-19>

メキシコオリンピックにおいて日本は、ナイジェリアに勝利、ブラジル、スペインに引き分けて決勝リーグに進出、フランスにも勝利して 4 強入りしたあとハンガリーには敗れたものの、3 位決定戦で地元メキシコを破り、銅メダルを獲得した。

冬の時代

メキシコオリンピックの銅メダルを受けて、次なる目標である W 杯出場を目指した。しかし、度重なる挑戦にもかかわらず、W 杯はおろかオリンピックですら地域予選を勝ち抜くことができず、次第に国内のサッカー熱も冷めて、長い冬の時代に入った。しかし日本サッカーリーグではプロ契約を結んだ選手の登場やクラブチームの台頭、また外国人選手が活躍するなど新しい時代への息吹が感じられつつあった。

15. サッカーマガジン ベースボール・マガジン社〔編〕

ベースボール・マガジン社 1966- 週刊 4巻12号(1969年12月) <Z11-19>

1969 年の W 杯メキシコ大会予選は、銅メダルの立役者、釜本選手の病気欠場もあって、韓国、オーストラリアに 2 敗 2 分けで敗退した。

1973 年の W 杯西ドイツ大会予選はイスラエルの前に敗退。

1977 年の W 杯アルゼンチン大会も予選敗退。

1981 年の W 杯スペイン大会予選も準決勝で朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)に敗れ、敗退。

16. サッカーマガジン ベースボール・マガジン社〔編〕

ベースボール・マガジン社 1966- 週刊 21巻1号(1986年1月) <Z11-19>

1985年のW杯メキシコ大会予選では最終予選まで勝ち進んだが、東京の国立競技場での第一戦に1-2で敗れ、ソウルでの第二戦も0-1と連敗してW杯初出場は夢と消えた。

17. サッカーマガジン ベースボール・マガジン社〔編〕

ベースボール・マガジン社 1966- 週刊 24巻9号(1989年9月) <Z11-19>

1989年のW杯イタリア大会予選では1次予選で敗退した。

18. Football 日本サッカー狂会〔編〕

〔日本サッカー狂会〕 [19--] -1992 1983年3月5日臨時増刊 <Z7-1018>

私設応援団である日本サッカー狂会の会報に、今では多くのスポーツで行われている「ニッポンチャ・チャ・チャ」の応援の由来が掲載されている。

「ドーハの悲劇」からW杯フランス大会出場、そしてW杯日韓共同開催へ

プロ化を目指した底辺からの強化がすすみ、1992年には日本初のプロサッカーリーグであるJリーグが開幕した。1993年のW杯アメリカ大会予選では惜しくも敗れたものの、1996年にはアトランタオリンピックに出場を果たし、ブラジルを破る大金星を挙げた。さらに2002年のW杯日韓共同開催も決定し、1997年11月ついに念願のW杯フランス大会の本大会出場を決めた。

19. Jリーグ、プロ制度構築への軌跡

Jリーグ法務委員会著

東京 自由国民社 1993.12 201p 18cm (J.K books) <KD978-E200>

Jリーグ設立にあたって、Jリーグ規約・プロ選手契約その他関連の諸規定について、その構築までのプロセスや背景、内容について解説する。

20. サッカーの社会学

高橋義雄著

<KD978-E298>

東京 日本放送出版協会 1994.10 216p 19cm (NHKブックス 717)

主要参考・引用文献：p209～214

Jリーグと地域社会・自治体・企業との関わりを解説しながら、サッカーを取り巻く社会の事象についてまとめる。

21. Jリーグカードコレクション Jリーグカード完全カタログ no.1

東京 小学館 1995.5 95p 15×21cm <KD978-E320>

Jリーグの選手のサッカーカードが発売され、コレクションの対象としても人気を呼んでいる。

22. 日本のサッカースタジアム 今日そして明日

日本サッカー協会監修 東京 日本サッカー協会 1996.5 304p 30cm <FS2-G9>

並列タイトル：Soccer stadiums in Japan, 東京 体育施設出版(発売)

Jリーグが開幕し、また 2002 年の W 杯開催が決定して、各地のサッカースタジアムの改修や建設が進められた結果、日本のサッカーの競技環境も大幅に改善されつつある。本書には日本全国のサッカースタジアムが建設中や計画中のものも含めて収録されている。

23. 日本サッカーの挑戦

ハンス・オフト著 徳増浩司訳 <KD978-E178>

東京 講談社 1993.9 238p 20cm

共同刊行：講談社インターナショナル 著者の肖像あり

外国人として初の日本代表監督となったハンス・オフト氏とそのサッカー哲学を語る。

24. 日本代表'94 ワールドカップ予選写真集

'94ワールドカップ予選に闘志を燃やした日本代表イレブンのメモリアル・フォトブック

東京 ソニー・マガジズ 1993.12 128p 30cm <KD978-E209>

(Jサッカーグランプリ特別編集別冊)

永久保存版

本大会出場まであと一勝としていた 1993 年 10 月 28 日の W 杯アメリカ大会アジア地区予選最終戦のイラク戦で、日本はロスタイムに痛恨の同点ゴールを決められ W 杯出場を逃し、「ドーハの悲劇」と呼ばれた。

25. 日本代表の隠された真実 ドーハの悲劇から 98 年フランスへ

ワールドカップサッカー ワールドカップ取材班著 <KD978-E236>

東京 蒼洋社 1994.5 166p 19cm 発売：ブレーン出版

W 杯アメリカ大会アジア地区予選において、なぜ日本代表が敗れたのかを振り返る。

26. サッカーマガジン

ベースボール・マガジン社〔編〕

ベースボール・マガジン社 1966- 週刊 31巻30号(1996年8月7日) <Z11-19>

メキシコ以来 28 年ぶりに出場したアトランタ・オリンピックで、グループリーク突破こそならなかったものの、ブラジルを 1—0 で破るなど好成績を挙げた。

27. サッカーマガジン

ベースボール・マガジン社〔編〕

ベースボール・マガジン社 1966- 週刊 32巻49号(1997年12月4日増刊) <Z11-19>

1997年11月16日マレーシアのラーキン・スタジアムにおいて行われたW杯フランス大会アジア地区第三代表決定戦でイランを下し、W杯本大会初出場を決めた。

28. 財団法人日本サッカー協会 75 年史 ありがとう。そして未来へ

日本サッカー協会75年史編集委員会編集・制作 <FS4-G18>

東京 日本サッカー協会 1996.9 430p 31cm

発売：ベースボール・マガジン社

29. 2002 年のフェアプレー 日韓共催と FIFA の政治力学

竹内浩著 東京 共同通信社 1996.10 253p 20cm <KD978-G60>

2002年日韓W杯共催決定までのいきさつを解説する。

◎請求記号が YDM ではじまる資料は、マイクロ資料でのご利用になりますので、展示期間中でもご利用になれます。

国立国会図書館 03-3581-2331(代)

ホームページアドレス <http://www.ndl.go.jp>

■国立国会図書館■□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□■03(3581)2331■